

科目目標:1 子どもの特徴と小児看護の概念を理解できる。  
 2 小児保健統計を踏まえ、子どもを保護する法律や保健対策を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 小児看護の概念が理解できる。	6 (3回)	1) 小児看護の変遷と課題 2) 小児看護の倫理 (1) 子どもの権利の変遷と動向 ① 児童の権利に関する条約 ② 権利擁護(アドボカシー) ③ インフォームドアセント 3) 小児看護の特徴 4) 小児看護の目的 5) 成育医療の概念	
2 子どもの特徴や成長発達が理解できる。	14 (7回)	1) 小児期の年齢区分 2) 子どもの特性—成人との違い 3) 成長発達 (1) 成長発達の原則 (2) 成長発達の影響因子 ① 遺伝的因子 ② 環境的因子 (3) 形態的特徴と成長 (4) 機能的特徴と発達 (5) 心理社会的発達 (6) 発達課題と発達理論 ① ピアジェ ② エリクソン ③ ボウルヴィ (7) 成長発達の評価 4) 子どもの発達と遊び 5) 子どもの栄養の特徴 (1) 小児各期の栄養	
3 子どもと家族をめぐる環境が理解できる。	8 (4回)	1) 子どもと家族を取り巻く社会の変化 2) 現代社会における子どもを取り巻く問題とその対応 (1) 育児不安 (2) 虐待 (3) 生活習慣病 (4) その他	
4 子どもの健康指標と保健対策を理解できる。	試験2H	1) 小児保健統計 (1) 出生・子どもの死亡 (2) 不慮の事故 2) 子どもを保護する法律と保健対策 (1) 児童福祉法 (2) 児童憲章 (3) 母子保健法 (4) 児童虐待の防止等に関する法律 (5) 予防接種法 (6) 学校保健安全法 (7) 子ども子育て支援対策	

科目名:小児の発達段階に応じた看護

単位時間:1単位(15時間) 2学年

科目目標: 小児各期の日常生活を理解し、その援助方法を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 新生児・乳児・幼児とその家族への看護が理解できる。	14 (7回)	1) 新生児・乳児・幼児の健康増進と安全な環境の提供 (1) 「食べる」に関する援助 (2) 「排泄する」に関する援助 (3) 「動く」に関する援助 (4) 「眠る」に関する援助 (5) 「身だしなみを整える」に関する援助 (6) 遊びへの援助 (7) 感染予防 (8) 事故防止 2) 家族への援助 (1) 親子関係の調整・分離不安 (2) 育児支援 (3) 地域保健サービスの活用	
2 学童とその家族への看護が理解できる。		1) 学童の健康増進とセルフケアの発達 (1) 食生活 (2) 学校への適応 (3) 学習と遊び (4) 健康教育と生活指導 (5) 事故防止と安全教育 2) 家族への援助 (1) 学童の情緒と家族の関係	
3 思春期にある子どもと家族の看護が理解できる。		1) 思春期の子どもの健康増進とアイデンティティの確立 (1) セルフケアと保健教育 (2) 食生活と食育 (3) 親からの自立 (4) 異性への関心・性の逸脱行動 2) 家族への援助 (1) 情緒的变化と家族の関係 (2) 思春期の問題行動と対応	
4 子どもの日常生活の援助技術が理解できる。	試験1H	1) 乳幼児の日常生活援助技術 (1) 乳児の抱き方 (2) 衣服の着脱とおむつ交換 (3) 子どもとのコミュニケーション (4) 子どもの安全対策	<校内実習> (2H) 「乳児の抱き方」 「衣服着脱、おむつ交換」 「ベッド柵の取り扱い」

科目名:小児の健康状態に応じた看護

単位時間:1単位(30時間) 2学年

科目目標:1 病気や入院が子どもと家族に与える影響と援助を理解できる。  
2 さまざまな健康状態にある子どもと家族の看護を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 子どもの入院環境が理解できる。	10 (5回)	1) 人的環境・物理的環境 2) 安全管理 3) 病院における子どもの権利	
2 外来における子どもと家族の看護が理解できる。		1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 2) 外来の環境 3) 外来における子どもと家族への看護 (1) 緊急度の判断 (2) 感染症対策 (3) 子どもと家族の緊張と不安の軽減	
3 在宅療養中の子どもと家族の看護が理解できる。		1) 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴 2) 地域の環境と看護の役割 3) 入院生活から在宅への移行に向けた支援 4) 子どものセルフケア行動の促進への支援	
4 災害時の子どもと家族の看護が理解できる。		1) 災害による子どもへの影響とストレス 2) 災害を受けた子どもと家族の看護 3) 災害時における緊急度の把握・トリアージ	
5 病気・入院が子ども・家族に与える影響を理解できる。		1) 成長・発達に及ぼす影響 2) 病気や診療・入院に伴うストレスと要因 3) 病気の理解度と対処行動 4) 病気や診療・入院に伴うきょうだい・家族への影響 5) 子どもやきょうだい・家族の影響を最小限にするための援助 (1) プレパレーション (2) インフォームドアセント	
6 小児期の主な疾病の病態生理・治療を理解する。	6 (3回)	1) 出生前・新生児・乳児の疾患 (1) 染色体異常 (2) 先天性代謝異常 2) 消化器系 (1) 先天性肥厚性幽門狭窄症 (2) ヒルシュスプルング病 (3) 腸重積症 3) 循環器系 (1) ファロー四徴症 (2) 心室中隔欠損症 4) 神経系 (1) てんかん (2) 脳性麻痺 (3) 髄膜炎 5) 腎・泌尿器系 (1) ネフローゼ症候群 (2) 糸球体腎炎 6) アレルギー・その他 (1) 川崎病 (2) 気管支喘息 (3) アレルギー性紫斑病	

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
7 ハイリスク新生児と家族の看護が理解できる。	12 (6回)	1) 低出生体重児の特徴 2) 胎外生活の適応を支える看護 (1) 保育器の管理 3) 成長発達を支える看護 4) 親子・家族関係の促進	
8 先天的な問題をもつ子どもと家族の看護が理解できる。		1) 先天異常の種類と特徴 2) 子どもの発達段階に応じた看護 3) 子どもの疾患に対する家族の理解と受容 4) 養育に必要な家族の心理的準備とケア技術獲得への援助	
9 心身障害のある子どもと家族の看護が理解できる。		1) 心身障害の種類と定義 2) 子どもと家族の障害の受容 3) 重症心身児と家族への支援	
10 急性状態にある子どもと家族の看護が理解できる。		1) 発熱・発疹時の看護(感染症) 2) 下痢・嘔吐・脱水時の看護 3) 呼吸困難時の看護 4) けいれん時の看護	
11 慢性的な経過をたどる疾患をもつ子どもと家族の看護が理解できる。		1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴 2) 子どもと家族の生活の変化 3) 長期的治療を要する子どもの発達に応じたセルフケア能力の獲得 4) 子どもと家族への支援	
12 終末期にある子どもと家族の看護が理解できる。		1) 子どもの死の概念 2) 死に対する子どもの反応 3) 子どもへの告知 4) 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア 5) 子どもの死を看取る家族へのケア	
	試験2H		

科目目標: さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 検査・処置を受ける子どもと家族への看護が理解できる。	18 (9回)	1) 発達に応じた説明と同意 2) 子どものフィジカルアセスメント 3) 検査処置の前・中・後の観察と安全安楽への援助 (1) 採血 (2) 採尿 (3) 骨髄穿刺 (4) 腰椎穿刺 (5) 与薬 (6) 輸液療法 (7) 吸入・吸引 (8) 酸素療法 (9) 経管栄養	<校内実習> (4H) 「バイタルサイン測定」 「身体計測」 「治療上必要な固定方法(シーネ、おくるみ)」 「酸素ボックス・酸素 Tent」 「吸引(口腔・鼻腔)」
2 活動制限が必要な子どもと家族の看護が理解できる。		1) 活動制限の目的 2) 身体的・心理的・社会的影響 3) ストレス対処への援助 4) 子どもの発達に応じた援助	
3 隔離が必要な子どもと家族の看護が理解できる。		1) 隔離の対象と方法 2) 身体的・心理的・社会的影響 3) 感染予防と子どもの発達に応じた援助 4) 面会・付き添い時の指導と支援	
4 手術を受ける子どもと家族の看護が理解できる。		1)子どもの手術の特徴 2) 手術を要する健康障害と手術の時期 3) 計画手術と緊急手術 4) 準備状態の把握とプレパレーション 5) 周手術期の援助 6) 日帰り手術と退院に向けての援助	
5 痛みのある子どもと家族の看護が理解できる。		1) 痛みの受け止め方 2) 痛みの表現方法 3) 痛みの客観的評価 4) 痛みの緩和への援助	
6 救急処置を要する子どもと家族の看護が理解できる。		1) 小児救急におけるトリアージと対応 2) 主な誤飲物質と処置 3) 熱傷の特徴・重症度及び処置 4) 溺水と処置 5) 心肺蘇生法 6) 乳幼児の意識レベル 7)生命が危険な状況での子どもと家族の不安の緩和	
7 事例を用い様々な状況に応じた看護を展開できる。	10 (5回)	1) 小児看護過程の特徴 (1) 成長発達の視点 (2) 家族の視点 (3) 健康障害の視点 2) 発達段階の異なる事例展開 3) プレパレーションを含む援助計画	<演習> (10H)
	試験2H		